

全国からの支援を受けて 迅速な本町の復旧・復興を

熊本地震や九州豪雨によって大きな被害を受けた本町では、迅速な復旧・復興を目指している。東日本大震災のときに宮城県東松島市へ町職員を派遣した本町では、震災からの本格的な復興に向けた事

業の推進に必要な職員を確保するために、震災発生以降、他県や国など約30団体からの職員派遣を受け入れている。11月末現在では、税務課の俵積田章展さん（鹿児島県鹿児島市）、産業振興課の桑木

和人さん（宮崎県えびの市）、建設課の松山昌樹さん（鹿児島県伊佐市）のほか4人が町職員と一丸となって震災対応業務や通常業務補助にあたり、本町の復旧・復興に尽力している。「暮らしに困っている人のために働きたくて、自治体職員になったんです」と話すのは俵積田さん。「震災発生時の様子を映像で見たときは、



桑木 和人さん

Kuwaki Kazuto

〔町産業振興課 宮崎県えびの市〕

松山 昌樹さん

Matsuyama Masaki

〔町建設課 鹿児島県伊佐市〕

俵積田 章展さん

Tawaratsumida Akihiro

〔町税務課 鹿児島県鹿児島市〕

現実味がわきませんでした。そこで自分に何かできることがあればと思い、職員派遣に手を上げました」と、本町で働く決意を語る。

「知らない土地での慣れない業務に苦労することも多いですが、あいさつが元気で気持ちがいいし、自然がいっぱいで良い町です」と住民の優しさに触れるという松山さん。プライベートではキャンプによく行くので、早く甲佐町の道路の復旧をして、皆さんが生活でも観光でも利用できるようにしたいです」と笑みを見せる。

「甲佐は、えびの市と似ているところが多く、若い人が元気なイメージです」と話す桑木さんは、「職場の雰囲気も良くて、勉強熱心な町職員の皆さんには感心しています。自分も今まで培ってきた経験や知識を活かして、甲佐町の1日でも早い復旧・復興を目指します」と目を輝かせる。本町は、他団体からの強力な支援を受け、町民みんなの力を合わせて安全・安心に暮らせるまちづくりを目指す。

広報 こうさ

2016年（平成28年）12月号
通巻569号